

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170900524		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム久喜吉羽		
所在地	埼玉県久喜市吉羽1丁目44-8		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88		
訪問調査日	平成23年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には公園、神社があり閑静な住宅街にあるホームです。ホームは平屋建てで中庭を中心にコの字型の作りになっております。中庭には入居者様が手入れをしている菜園があり、収穫したものを食材として利用しております。
月に1~2回、季節に合わせた行事(外出)を開催し、近隣の方、ボランティアの方々に参加していただき地域との交流を図っております。また職員と入居者様と二人で入居者様の行きたいところや好みのものを食べに行ったりと、個別ケアにも力を入れております。
入居者様の「その人らしさ・今を大切に」を心がけ、日々考えケアに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の環境に恵まれたホームの中で、比較的自立度の高い利用者が、生活している。ユニット毎の特徴も出ていて、季節感に考慮した空間作り、細やかな配慮が伺える。運営推進会議には行政、家族の参加人数が多く、活発な意見交換ができる環境がある。オーナーの家族の方々にも各方面に渡り、支援いただく事ができる。職員の有する資格が介護関係にとどまらず、調理師、栄養士、社会福祉士等他にもいろいろな資格を活かして、介護の現場に反映出来るよう全職員が、日々努力、精進しているケアの姿勢は素晴らしいと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念・ビジネス基本姿勢10か条の掲示や申し送りの際に唱和をし、理念を共有している。またフロアでも目標を立て、ケアに取り組んでいる。	ユニット合同で唱和して確認している。法人、ホーム、ユニット毎の理念を掲げて、全職員で共有して日々のケアに活かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々との交流や希望された時に散歩、買い物等の外出ができる環境を作り、地域との交流が図れる機会を設けている。	社会福祉協議会に依頼して、季節にあわせたボランティアを紹介して頂いている。自治会員として運営方針に沿えるように努めている。夏祭りや行事には互いに協力できる体制が整えられている。	地域住民との交流場面が少ないと感じる状況があり、今後ホーム発信の行事の案内を配布して、更に馴染みになれるように努力していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族からの相談や入居相談以外にも、認知症ケアで悩んでいる方々への介護相談を随時受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催している。ご家族・市役所職員・地域包括支援センターの方々へ出席していただき、ホームの状況や活動などを報告している。またその際に意見を頂戴し、サービス向上に活かしている。	家族、地域包括支援センター(中央、東)介護福祉課職員の協力を得て、隔月に開催されており、直接家族が市町村に質問できる場として活用されている。ヒヤリハット、ケアミスも積極的に開示して、理解して頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、ホームの実情や活動を伝えている。また分からないことは市役所に訪問し、アドバイスをいただいている。	介護保険課の職員は、認定に関わることで利用者個々に面会を行っている。入所前、入所後の生活状況を互いに把握できるように連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員が日々のケアを振り返り、正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。防犯・安全面を留意する上で、玄関の施錠はしているが、外出の希望が聞かれた際は可能な限り答えるように努めている。	建物の構造上、玄関の施錠は実施しているが、随時の外出希望には、可能な限り対応できるよう努めている。ユニット間の仕切りはなく、行き来ができ、自由な行動の援助を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても同様に勉強会を行なっている。職員同士で日々のケアを振り返り、お互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの方に運営推進会議で権利擁護・成年後見人制度について講義をしていただいたが、全ての職員が学ぶ機会は持っていない。今後の勉強会の中に取り入れ理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族の不安や疑問を聞き、理解・納得していただけるまで十分な説明を行っている。また利用時に起こり得る事故や重度化した場合の対応、退居についてなど、詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・カンファレンス・面会時等にご家族からの意見や要望を聞き、運営に反映させている。また年に1回、ご家族様満足度アンケートの実施や玄関に苦情・相談窓口の案内を掲示したり、葉書を設置し意見等を表せるようにしている。	家族のカンファレンスの参加率が高く、直接意見交換ができ、意向の検討が速やかに実施されている。出来るだけ多くの家族から意見を聞くことが出来るように、面会時、行事参加時には可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、職員満足度アンケートを実施し、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。会議、研修終了後もアンケートを実施し、アンケートに書かれていることを反映させている。また個人面談を実施し意見を聞くようにしている。	年2回個人面談を実施、各職員の自己評価に繋げている。会議、研修後、「ひらめき、ときめきアンケート」を実施している。ケアの向上に繋がる様に全職員が意識を高く持って就業している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職前の介護経験年数、入社後の勤務年数、資格手当、勤務態度等で個人の努力、実績に差がつくような給与体系となっている。表彰制度もあり、職員が向上心・やりがいを持って働けるように職場環境・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の方には会社が学費の一部を負担するヘルパー2級資格所得支援制度がある。また会社でホーム長・ユニットリーダー研修や毎月のホーム内勉強会が義務付けされており実施している。外部研修の参加は職員の意思に任せているが、情報・案内等はアナウンスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の事例研究発表会、他ホームへの見学、社内研修、合同レクリエーション等で交流をし、サービス・ケアの質の向上を図っている。また市内グループホーム連絡会に参加し、同業者との交流もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの際にコミュニケーションを第一に考え、ご本人と接するようにしている。その話の中で困っていること、不安なことなどを聴き、入居後の不安を軽減するよう受け入れ準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちを大切に受け止め、ご本人同様不安にならないよう、寄り添った関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話を聴いた上で、その時一番必要としているサービスを提供、紹介している。グループホームが一番本人らしい生活を遅れる場所と判断された方を受け入れの条件としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをされる側、する側とならないよう、心の交流を深め、一緒に生活している気持ちを忘れずにケアを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日頃の様子を毎月お手紙で報告し、面会・カンファレンスの時に話し合い、共に支え合う関係づくりをしている。またご家族にしかできないことは協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とのコミュニケーションを通じて、思い出の場所などを聴いたり、ご家族から話を聴いたりして、個別ケアでその場所に出かけたりしている。	訪問理美容を受け入れているが、昔からの店舗に通っている利用者もいる。自宅外泊可能な利用者も多く随時支援をしている。新聞購読を継続している利用者があり、近隣の情報を調べ外食支援等に活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で入居者様同士の関係を把握し、互いに関わり合う関係を職員が間に入りサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族に様子を伺ったり、面会に行ったりしている。また必要に応じて支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中でご本人の思いや暮らし方を聴き、また言葉として出てこない気持ちにも耳を傾けている。コミュニケーションが難しいときはご家族からお話を聴き、思いや意向の把握に努めている。	利用者個々の意向をくみ取れるように、常に心配りを忘れずに日々のケアをしている。担当職員を決めているため、個別ケアを重視した支援に充分対応できるように、シフト等の配慮が成されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に、ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方を聴き、またご家族や関係者からも色々聴くよう努めている。また入居後もコミュニケーションを取りながら把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中でご本人の過ごし方、心身の状態、できること、できないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご家族と色々話し合った上で、今の現状に合ったケアプランを作成している。	ケアプランは自社の作成プロセスに基き、利用者、家族、職員の意見を反映して、利用者本位のケアが提供できるよう作成し、必要に応じて見直し、変更を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には日常の過ごし方、ケアの実践、サービスの結果などを記入するようにしている。また会議等で情報の共有や気づいたことなどを話し合い、ケアプランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせたサービスを提供できるよう、情報の把握に努め、必要な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に挨拶を行い、普段から関わり合いを持つように努めている。またボランティアの受け入れを行い、楽しみのある生活支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族にはホームで利用している往診医の説明をし、その上で医療機関の選択をしていただいている。また必要に応じて医療機関の紹介も行なっている。	看護師兼介護支援相談員が常駐しており、利用者の急変に迅速に対応できる環境がある。利用者の大部分は24時間対応の往診医の受診をうけている。緊急時には救急隊の判断や家族の要望を優先している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、日常の関わりの中で気づいたことや情報を看護師に報告・連絡・相談し、適切な受診や看護を受けられるよう協力体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病院関係者やご家族と情報交換を行ない、早期退院ができるよう努めている。また退院後も安心して生活が送れるよう環境の整備にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合における医療体制指針およびホームとしてできること、できないことを説明している。現在そのような入居者様はいないが、今後はご本人、ご家族、かかりつけ医、地域の関係者等、よく話し合いながら体制を整えていきたい。	開設時から入居されている利用者も居られる為、今後家族、利用者からの終末期ケアの相談等が発生した場合には、職員等の精神的ケアも含めて、ホームとしての出来る範囲内で対応可能な説明をして行きたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で緊急時の対応について学んでいる。また連絡体制の確認も行い、急変や事故等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導の下、年に2回消防訓練(一度は夜間想定)を実施している。また毎日の防火自主点検業務を行い、災害対策の意識を高めている。消防訓練の際には地域の方への参加を呼びかけ、協力体制を築いている。	防災訓練に関してはオーナーの家族の協力が得られる環境にあり、毎回内容のある訓練が実施出来ている。地域の防災組織作りの話題が出ているので、自治会員として協力していきたい意向がある	非常災害時の際には避難所として提供できること、備蓄があること、地域に協力できることをアピールして、近隣住民の協力を得られる様に努力していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご本人の人格やプライドを意識し、プライバシーを損ねない言葉遣いや声かけを行っている。またホーム勉強会や各ユニット会議でも職員全員に伝えている。	接遇の基本を職員でふりかえる機会を持ち、敬意を表しながら、意欲を引き出せるような会話ができるよう、勉強会等で周知徹底をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう時は必ず意思を確認し、希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の気持ちに寄り添い、ご本人のペースに合わせた生活が送れるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族には自宅で着ていた洋服、好みのものを用意していただいている。起床時の整髪、洗顔、男性なら髭剃り等、声かけや介助にて身だしなみを整える支援をしている。また月1回、訪問理容をお呼びし、好みの髪型にできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者様には職員と一緒に準備(米とぎ・野菜きりなど)や片付けを行なっていただいている。食事が楽しみになるよう、その人に合わせた食事形態などにしている。また個別ケアで好みのものを食べに出かける支援も行っている。	手際良く準備していくことができる利用者が数名おり、職員と一緒に体調に配慮して行うことができている。家族対応で外出に出かける利用者もおり、自家製の惣菜を持参する家族もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士がバランスの摂れた献立を考えている。一人ひとりに合わせた食事形態や提供方法をご家族・職員・往診医・看護師などと協議し実践している。また定期的な水分補給の提供や必要な方には栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアの声掛け、介助を行っている。口腔内の状態に努め、場合によっては訪問歯科に診察、治療をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況をチェックし、トイレへの声かけや誘導を行なっている。職員にはオムツや尿パットなどのコスト面の意識をもつよう話しをしている。また使用時はご家族に相談し最適な方法を選択している。	プライバシーを踏まえてその人にあったケアが、提供されているか、職員各自がふり返りつつ、安全に排泄が出来るよう、尊厳を守れるように支援している状況が確認出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行運動や水分摂取の確保に努め、できる範囲で身体を動かしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人の入居者様に対し、週2~3回の入浴を基本としているが、ご本人の希望があればいつでも入浴できる環境づくりをしている。また入浴剤を入れ、香りや色を楽しんでいたできるようにしている。	自立入浴できる利用者が多く、職員は安全面に配慮して随時の声かけを行い、いつでも希望の時間に入浴できるように支援している。拒否があっても無理強いほしないケアを実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や運動など活動量を増やし、夜間に安眠が取れるよう、生活リズムを意識した支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬状況を把握し、その方に合った服用方法できちんと服薬していただけるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割を持っていただくことで張り合いのある生活が送れるよう支援している。また外出などで気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際はできる限り、外出できるよう努めている。また個別ケアや季節ごとに外出先を選び、楽しんでいただけるよう支援している。場合によりご家族にも協力をお願いしている。	ユニット毎に外出支援をおこなってはいるが、あまり外出を望まない利用者もいるため、強制的な態度、言動は控えている。日帰り及び宿泊旅行の際には家族の参加を頂いて楽しむことが出来るよう、毎回計画を立てて実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行なっているが、ご本人が管理を希望される場合は、ご家族に集団生活を行なう上での金銭トラブルを話した上で、小額のみ許可する場合はある。また入居者様には事務所でお金を預かっていることを伝え、いつでも買い物ができることを話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、手紙を出したりできる体制づくりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日清掃をし、衛生管理を行なっている。フロア内は季節感を感じていただけるよう、飾りつけなどを工夫している。また室温など配慮し、トイレ等を分かりやすくするなど、環境整備に努めている。	ユニット毎に、明かりを充分に取り入れることができる構造上の利点を活かしている。ユニット間の空気の流れも良い環境にあり、季節を感じてもらえる様、掲示物に工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平屋建ての利便性を活かし、ホーム内は自由に行き来ができるようにしている。入居者様同士の交流しやすい環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時に馴染みのものや使い慣れたものを持ってきていただくよう、ご本人やご家族にお話している。自分だけの居室空間がつけられるようにしている。	居心地の良い居室空間を、一緒に作って行けるように、家族、利用者と相談しながら、家具、寝具の調整を支援している。片付けや整理の希望があれば随時対応出来る体制が整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置はご本人が分かりやすいように表札などを掲示し、自立した生活が送れるよう工夫をしている。入居者様が安心・安全に暮らせるよう環境整備に努めている。		